図書館システム元年から20年

附 属 図 書 館
木 村　伸 子

総合情報基盤センター創立20周年、おめでとうございます。昭和63年12月に「電子計算機センター」から「情報処理センター」（以後、「センター」と記述します。）へ生まれ変わられたわけですが、翌平成元年に、附属図書館（以後、「図書館」と記述します。）もセンターシステムの一環としてコンピュータを初めて導入し、「図書館システム元年」を迎えました。

図書館はこの20年間、システムの導入及び更新を、常にセンターと歩調を合わせて進めてきました。まさにセンターとともに歩んできたという感がします。その思い出を振り返ってみたいと思います。

１　図書館システム元年

平成元年は、私にとって大変思い出深い年です。元年3月に、本庄キャンパス中央に白い4階建ての図書館新館（現図書館）が竣工し、夏には旧図書館から図書・雑誌ともども移転する、という大事業が控えていました。加えて、同時に図書館システムを導入・稼働するという、二つも大イベントが重なった節目の年で、まるでお盆とお正月が一度に来たような慌しさでした。

竣工成って間もない新館の4階事務室は、事務机・椅子・キャビネなど事務用品は何もなく、書架もなく、春先の寒々としただだっ広いフロアに、OAデスクと専用端末が2台（だったと思いますが）ポツンと置かれていた光景が目に焼きついています。この端末は目録入力用で、当時の学術情報センター（現国立情報学研究所）のNACSIS-CATに接続されたものでした。NACSIS-CATとは、オンライン共同分担目録方式により全国規模の総合目録データベース（図書/雑誌）を形成するためのシステムで、佐賀大学はそのときに初めて接続し、参加したわけです。端末は、本稼働前の目録担当職員のトレーニング用として、移転前に新館に設置されたものでした。

4月の管理部門引越、そして8月のサービス部門及び図書館資料の移転、9月開館というスケジュールに合わせて、目録システムと閲覧システムが順次稼働しましたが、当初はいろいろと不慣れなせいかシステムがよくダウンし、データ復旧に走り回ったのを覚えています。図書館職員はコンピュータに使われて右往左往している、と利用者からお叱りも受けました。しかし、従来の紙を使った手作業からすると、コンピュータのオンライン・リアルタイム処理の便利さは計り知れません。私達もだんだんとコンピュータの世界に慣れていきました。

２　パソコンの進化

平成5年2月には、システム化していなかった受入業務にシステムを導入しました。当時は、パソコンの性能が上がって、ダウンサイジングという言葉が盛んにいわれた時期で、導入したシステムも、パソコンを使ったサーバ・クライアント方式を採用しました。

その頃くらいから次第にインターネットが身近なものになってきました。電子メール、FTP、WWW、ブラウザなど、聞きなれない用語がどんどん出てきました。マイクロソフト社のWindows95が登場し、パソコンで気軽にいろいろな機能を使えるようになりました。見よう見まねで図書館のホームページを作成し、開設したのもこの頃です。

３　新しい図書館システム

平成10年2月に、図書館システムの2回目の更新を迎えました。学術情報センターの

NACSIS-CAT は、従来の接続方式を将来的には中止するということで、新 CAT という新しい接続方式の提供が開始された直後でした。この新方式に対応した図書館システムは製品としてまだ市場に出ていませんでした。この 2 回目の更新のタイミングで新方式を導入できなければ、さらに数年間従来の方式で業務を行なうことになります。

随分悩みましたが、業者のご協力を得て、一から新方式対応の図書館システムを作るという話になりました。しかし、システムを初めから作るのは容易なことではありません。どうするか決めかねて、当時の館長である白濱先生にご相談すると、「やりましょう。できなかったら一緒にコケましょう。」（！？）と仰って下さり、背中を押して頂きました。

図書館職員と業者のご尽力のお陰で、システムは完成し稼働しました。新方式のシステムということで、全国の大学図書館から多数の見学者が来館され、てんてこ舞いしたのを思い出します。

４　電子図書館

平成 12 年 4 月に、センターが「学術情報処理センター」として発足しました。その業務の中には、新たに電子図書館の整備及び維持が含まれており、私はセンターと図書館の兼任の職員として関ることになりました。そして翌 13 年 3 月に電子図書館システムが稼動しました。この電子図書館システムは、佐賀大学が持つ研究・教育に関する情報を広く収集し、統合的に提供するシステムを作ろう、ということで構築されました。研究情報やシラバスのデータ、学位論文や紀要論文のデータなどを横断検索できる機能を持っています。

各データベースの仕様打合せは楽しいものでした。このシステムは、佐賀の地に多く生息するトンボの複眼に因んで「佐賀大学電子図書館　とんぼの眼」と名づけられました。

５　システム統合

平成 15 年 10 月に佐賀大学と佐賀医科大学が統合し、両大学のシステムも統合する必要があり、センターと一緒に「キャンパス間接続システム」を導入しました。双方の図書館システムが同じ業者の製品だったことは幸いでした。利用者のコード体系がかなり違っていたので、どのように管理するか頭を悩ませましたが、うまく統合することができました。

６　利用者用端末の増設

平成 18 年 3 月の更新では、センターシステムの一環として、利用者用端末を図書館に 55 台増設し、センターの演習室と同じパソコン環境で利用できるようになりました。

以上、駆け足で振り返りました。コンピュータが図書館に入り、システムとして発展して行く現場に居合わせ、少しでもお手伝いに参加できたのは大変幸せなことでした。センターの方々には、導入・更新の度に、その当時の最新の機器や性能、仕様書の書き方まで、いろいろご教示頂きました。コンピュータの進歩は日進月歩で、登場する用語が解らず、いつもとんちんかんな質問をしましたが、その都度丁寧に教えてくださり、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、総合情報基盤センターの今後の益々のご発展をお祈りいたします。